

こんにちは！ 診療所の医師です③

大山口リハビリセンター所長を紹介します。



久野淑枝所長

大山町国保診療所医師の紅一点、大山口リハビリセンターの久野淑枝です。

私は昭和61年3月に鳥取大学医学部を卒業後、鳥取大学医学部神経科精神学科に入局し、山陰各地で診療に従事した後、平成13年5月から大山口リハビリセンターに赴任しました。

大山口リハビリセンターの紹介

当センターは、医師、理学療法士、看護師、事務員、リハビリ助手各1人の5人で診療しています。

診療科目は、心療内科とリハビリテーション科です。診療は全て予約制となっています。

心療内科では、社会的に注目されているうつ病、パニック障害の他、摂食障害、不登校など、

見えない糸をほぐすような作業を必要とすることもあります。リハビリテーション科は、大山口診療所と連携しながら、脳梗塞後遺症、各種術後リハビリを必要とする方から、肩こりや腰痛、膝痛の方まで、各種リハビリを行います。

痛みが主症状の「うつ」

皆さんは「うつ病」というと、落ち込んだ暗い気分を思い浮かべるのが一般的だと思います。しかし、軽症の場合、身体の症状しか訴えがなく、診断が難しくなることがあります。意外なことに、痛みが主症状の「うつ」もあります。

運動器生活習慣病(※)の多くは、「腰痛」「肩こり」「手足の痛み」で、日本人の4人に1人がこれらの症状を抱えているといわれています。この中に身体的な原因だけでなく、心理的・社会的な要因が関与していることがあります。患者さんが体の痛みだけを感じ、身体的検査治療のみを期待しても、治療がなかなか進まないことがよくあります。

痛みと抑うつが絡み合い、身

体的原因と心理的原因が相互に作用し、治療が難しくなることが非常に多いのです。

内臓器症状とストレスによる不安など心理の関係を研究することで心療内科が発達してきました。人口の高齢化と並行して猛烈な勢いで増え続けていく運動器生活習慣病の疼痛(ずきずきする痛み)などの治りにくい症状に対する心身医学的な治療が、ますます必要になってくるのではと考えています。

心と身体の健康のため、お役に立ちたいと職員一同考えています。

大山口リハビリセンター	
診療科目	リハビリテーション科、心療内科
休診日	日曜日、土曜日午後、祝祭日、年末年始、第2、第4土曜日
診療時間	平日/午前9時～12時 午後3時～6時
	土曜日/午前9時～12時
	※水曜日は午後5時に終了します
電話番号	0859-39-5333

※生活習慣が原因で起こる身体の痛み